

ワオ！ CDC が移民たちにイベルメクチンを与えている

このノーベル賞受賞の Covid 治療法を、なぜ我々には隠すのか？

Kelen McBreen / Infowars

September 3, 2021

* 連邦政府は、イベルメクチンは人間にも危険でないことを知っている。

* メディアと政府のニセ情報キャンペーンが暴かれる。

<https://www.infowars.com/posts/wow-cdc-gives-incoming-refugees-nobel-prize-winning-ivermectin/>

2019 年以來、アメリカに入ってきた、すべての中東、アジア、北アフリカ、ラテンアメリカ、それにカリブの移民たちは、イベルメクチンを処方されている。

CDC の勧告書は、本国で移民の選別をしながら、国際移民組織 (IOM) で働く医者や、到着した移民を治療するアメリカの医者たちに、イベルメクチンとアルベンダゾール (albendazole) の両方の処方を勧告している。

この CDC の指導書 は、Covid の前に公表されているので、これを疑う人々は、イベルメクチンは寄生虫駆除のためであって、Covid-19 のために処方されたものではないと言い、この薬はウイルス感染には効かないだろうと言うであろう。

<https://www.cdc.gov/immigrantrefugeehealth/guidelines/overseas-guidelines.html>

イベルメクチンを創った人々は、これが回虫などの寄生虫から起こる伝染病と戦う能力を認められて、2015 年、ノーベル医学賞を授与された。

<https://www.nobelprize.org/prizes/medicine/2015/press-release/>

東京のトップ保健指導者、尾崎治夫博士が最近、説明したように、「アフリカでは、もし、毎年イベルメクチンを配布している国を、配布していない国に比較するならば——私が言うのは、Covid を防ぐイベルメクチンは与えないのに、寄生虫のためのものは与えているという意味だが——イベルメクチンを与える国の Covid の数量を調べると、

その患者数は、10万人に対して134.4人であり、死者数は、10万人に対して2.2人だった。」

彼は続けて言った、「今、イベルメクチンを配布していないアフリカ諸国では、患者は10万人に950.6人、死者数は10万人に29.3人となっている。その違いは明らかだと思う。」

いくつかの研究が、イベルメクチンは現実に、Covid-19の治療に効果があることを示している。<https://c19ivermectin.com/> しかし、こうした情報が現実に暴露しているのは、現在のメディアや政府の、それに対する悪魔化のキャンペーンである。

メディアがこれを「馬のペースト（虫くだし）を食う人々」と騒ぎ、この薬物を誤用する人々から、毒性対照標準の増加を主張する、いろんな物語があるにもかかわらず、CDCは、少なくともこの2年間、難民たちにこれを与え続けている。
https://www.huffpost.com/entry/horse-paste-ivermectin-flccc_n_612d1980e4b02be25b5edd15

ところで、Fox 9 Minnesota 物語は、イベルメクチン過剰服用と言っている症状を、「むかつき、嘔吐、下痢、意識低下、幻覚、発作、昏睡、それに死」だと列挙している。
<https://www.fox9.com/news/ivermectin-poison-control-calls-increase-in-minnesota-in-august-amid-covid-19-misinformation>

しかしアメリカでは、たった一人の人間も、Covidにつながるイベルメクチンの過剰服用で、死んだ者はいない。

加えて言えば、イベルメクチン馬物語を強調する人々が、なぜそうするかといえば、この薬品が攻撃されることによって、多くの医者や薬剤師が、それを処方したり広告したりすることを、控えるようになったからである。

体制派は、トップのポッドキャスト・ホスト、Joe Rogan とか、「チアーズ」スターのKirstie Alleyのような有名人たちが、Covid 退治のためとして、この薬を宣伝していることに慌てるようになった。<https://www.infowars.com/posts/cheers-star-kirstie-alley-70-says-she-used-ivermectin-joe-rogan-protocol-to-treat-covid-and-recovered-in-12-days/>

CDC は明らかに、この治療薬は人が使っても安全であり、医者たちが、今それを移民たちに処方しているように、アメリカ中の何万という医者たちが、Covid 治療薬として患者に与えていることを知っている。

ではなぜ、主流メディアや、FDA のような政府機関が、ウィルスを克服することのできる治療薬を、アメリカ人から奪って遠ざけようとするのだろうか？

【訳者】 以下、Global Research から、若干のこの関連のニュースを引用しておく：

Dr. Paul Craig Roberts

September 2, 2021

悪の勝利？ 彼らは、COVID ワクチン接種の決定的悲劇に加担しようと、イベルメクチンと HCQ (ヒドロキシクロロキン) を抑圧するのだろうか？

シンシナティの West Chester Hospital の殺人者どもは、患者たちをイベルメクチンで治療するよりも、死んでほしいと考えている。

これこそ、いかに医療体制派が、狂い、洗脳されているかを示すものである。ある裁判官が、病院に介入し、イベルメクチン治療を、死にゆく患者に与えよと命令しなければならなかった。アメリカでは、有効な医療を勝ち取るためには、法廷で勝たなければならない。

腐敗した公衆衛生の権威者たちは、ビッグファーマの利益のために、このような口実を使う——イベルメクチンを渴望しているが、人間のためにはそれが手に入らない人々が、動物向けの大量服用のために、自分に害を与えている。これはもちろん、人間のためには、服用規定の適用を禁止することの理由にはならない。

イベルメクチンが、River Blindness (河川盲目症) 対策として用いられたアフリカで、Covid に効き目を現した

ある以前の論文で私が指摘したことだが、マラリアの蔓延する国々で、人々が感染を防ぐために、伝統的に毎週、HCQ を摂っている所では、Covid の症例はまれである。それは HCQ が、Covid 予防かつ治療としても働くからである。

現在、証拠が日本の研究者たちからも上がっており、アフリカの Onchocerciasis（河川盲目症）が流行する国では、イベルメクチンが、感染を防止かつ治療のために、民衆に配布されている。これらの国々では、實際上 Covid は存在しない。

研究者たちは、アフリカを、River Blindness のイベルメクチンによる抑制計画をもつ国と、もたない国に分けている。イベルメクチン計画をもたない国々は、2億2千万も少ない人口にもかかわらず、4.3 倍の患者と、5.7 倍の Covid 死亡者が出ている。・・・

(・・・以下、かなり長くこの論文は続いている。)

同じ Global Research から：——

「ニセの〈デルタ変異種〉と第4波——もう一つのロックダウン？ 起こっている財政破綻？ 経済と社会の世界的破壊？」(Prof. Michel Chossudovsky, Sep. 4, 2021)

「mRNA ワクチンの有毒な投与：医療の悪習慣か、スローモーション・ジェノサイドか？」(Peter Koenig, 8/25)

「我々人類は遺伝的に操作されている：人類の絶滅への行進？ マイクロバイオームとウィロームの分析」(David Skipac, 8/15)

「精選記事：イベルメクチンと HCQ に関する大きなウソ」

「イベルメクチンへの反対キャンペーン：WHO のチーフ科学者が、法的広報上で情報を曲げ、証拠を抑圧した」

「Dr. Hector Carvalho とのインタビュー：イベルメクチン、Iota Carrageenan、Bromhexine、および Covid-19 の先駆者」

「インドのイベルメクチン報道管制、査読された分析の検閲・・・」

「Covid、イベルメクチン、および世紀の犯罪・・・」

〔訳者 Greatchain より〕

これによって「イベルメクチン」を中心とする、体制側の悪辣な犯罪の実情がよくわかるであろう。ところで、こういうことを、目覚めたジャーナリストでも学者でもない、いわゆる素人が読んでみて、全く夢にも知らなかった、いわゆる驚天動地の事実であったらどうなるか？ 彼らは確実に、知らないうちに洗脳され、殺され、取り返しのつかないことになるであろう。今、現実に存在するそのような画策が、着々と進行している。よくはわからないが薄々は知っている、というのならよい。しかしそういう人が多いとは思えない。

恐ろしいのは、ここに訳したような問題を、連日、全く聞いたこともないかのように論じている、政治家や政府機関の方々——指導者の方々——が、これをどれくらい知っているのか、それとも全く知らないのか、全くわからないことである。思い切って言うならば、この人々は早晩、我々国民を、敵に回す人々なのだろうかという疑念が、わきあがってくることである。これは明らかに、我々はどのような世界に住んでいるのかという、深い世界解釈の問題である。見た目の、そう考えるのが「よさそうだから」という問題ではない。

これは、ここに挟んだポール・クレイグ・ロバーツの論文「悪の勝利？…」に現れている問題である。ついでながら PCR は、我々がここでしばしば論じた、かつてレーガン大統領のアドバイザーだった人である。